



# お役立ち情報

野菜版  
(R元)

～鹿児島県農業で活用いただきたい新品種・新技術～

## 最新研究成果

### サトイモの優良種いも増殖に有効な湛水畝立て栽培法

園芸作物部・生産環境部・大隅支場

#### 特徴

- 本栽培法は、水田で栽培し、葉数が5枚以上展開した6月から3か月程度、畝間に水を流しながら湛水するもの
- いも個数、重量が畑地栽培に比べて2割程度増加し、病害や障害いもの発生が軽減し優良種いも生産が可能
- 本栽培法で生産された種いもは、畑地栽培由来の種いもと同等の収量が得られ、生産能力に差はなし



本葉5枚以上の6月から、用水路より水入れ



湛水1か月後、順調に生育

#### 技術ポイント

##### ◆ほ場の選定

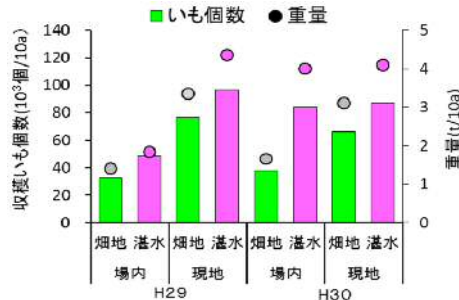
- 排水性の良好な水田が望ましい

##### ◆栽培管理

- 畝間1mで畝立て黒マルチし、株間20～30cmで植付
- 本葉5枚以上で湛水を開始
- 用水路から畝間に水深10cm程度でかけ流す
- 湛水期間は6月から3か月程度

##### ◆施肥管理

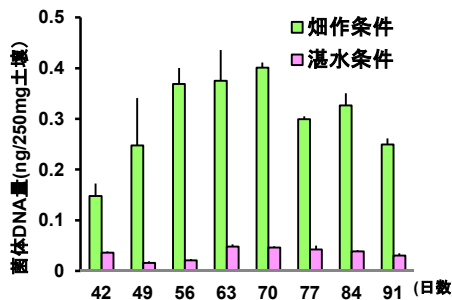
- 窒素施肥15kg/10aのうち7割を被覆尿素リニア型70日タイプ、3割を速効性窒素肥料で配合し、全量基肥(石川早生丸)
- カリなどの土壤肥沃度維持のために、牛ふん堆肥の2t/10a施用が必要



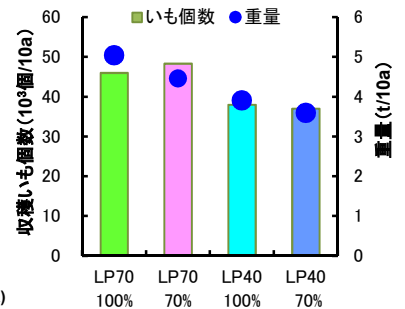
規格内の種いも個数と収量は2割程度増加(石川早生丸)



収穫時のいもの着生状況(石川早生丸)



湛水条件下では、乾腐病菌の増殖が抑制される



LP70 70%の規格内いも個数が最も多く、適する(農開セ:H28年度)

#### 適応地域

サトイモ種いも生産農家

(公募:革新的技術開発・緊急展開事業)

## 鹿児島県農業開発総合センター

農業開発総合センター

検索



# 加工・業務用キャベツを11月から5月に出荷する作型の適品種

大隅支場

## 特徴

### 11～5月どり作型の適品種

品種名	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
T-532	●	×			■					
TCA-422	●	×				■				
夢ごろも 夢舞台	●	×				■				
YR銀次郎	●	×					■			
青龍345 冬ぐり 冬のぼり 夢ごろも	●●	××						■		
若隅3号			●		×				■	
おきな				●		×				■

●: 播種期, ×: 定植期, ■: 収穫期

- 継続的安定生産が可能
- 適品種は既存品種よりも大玉で、収量増加

\* 加工・業務用キャベツに適する品種とは

- ・大玉(結球重1,800g以上)である
- ・在ほ性が高い(裂球が少ない)
- ・内部障害の発生が少ない
- ・カット後のポリウムが損なわれず、水分のしみ出しが少ない



内部障害の様子



カット工場で廃棄されたキャベツ

写真提供: 大隅加工技術研究センター

## 適応地域

県本土全域

# 土壌の地力窒素レベルに応じたキャベツの窒素施肥量

生産環境部

## 栽培ポイント

- 畑土壌の地力窒素(可給態窒素)を簡易測定できる(図1)
- 地力窒素は地温が高いほど発現量が多く、時期によって窒素肥料として換算できる量が異なる(図2)
- キャベツの作型ごとに、地力窒素レベルに応じた窒素施肥量をとりまとめた(表1)

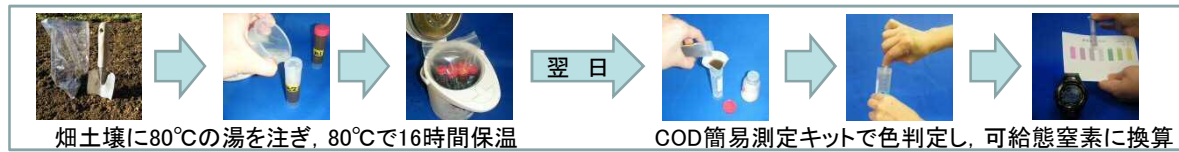


図1 地力窒素(可給態窒素)の簡易測定法

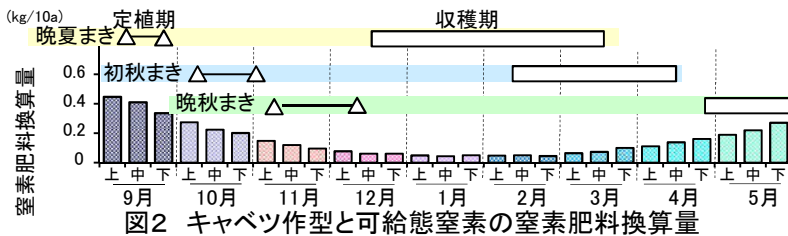


図2 キャベツ作型と可給態窒素の窒素肥料換算量

表1 キャベツ作型別の地力窒素と窒素施肥

作型	換算量 (kg/10a)	注1) 可給態窒素(mg/100g)と施肥窒素量(kg/10a) 注2)				
		1 (低)	2	3(標準)	4	5 (高)
晩夏まき	2.1	19.2	17.1	15.0	12.9	10.8
初秋まき	0.8	16.6	15.8	15.0	14.2	13.4
晩秋まき	1.4	17.8	16.4	15.0	13.6	12.2

注1) 換算量は、地力窒素1mg/100gが、施肥窒素で何kg/10aに相当するか、図2から求めた量  
 2) 県の施肥基準である15.0kg/10aを標準とした場合の施肥量で、地域の基準がある場合には、その基準量から加減

## 適応地域

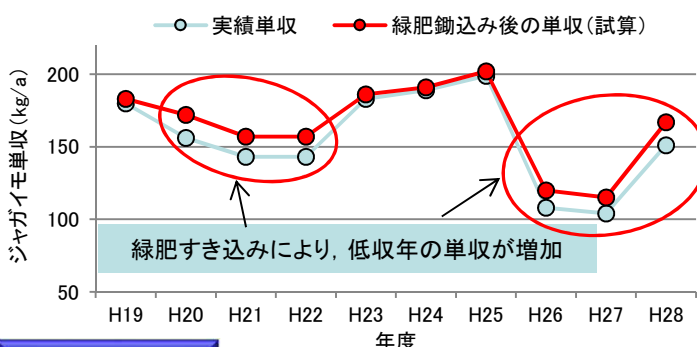
県内全域 (公募: 農水省委託プロ「適正施肥」)

# 冬播き緑肥鋤込みによるジャガイモ増収効果

徳之島支場

## 特徴

- 冬播き緑肥(エンバク)を鋤込むことで、低単収年のジャガイモ収量の引き上げが可能
- 緑肥(エンバク)の播種時期は2月下旬から3月中旬
- 鋤込む時期は緑肥(エンバク)の出穂期



## 適応地域

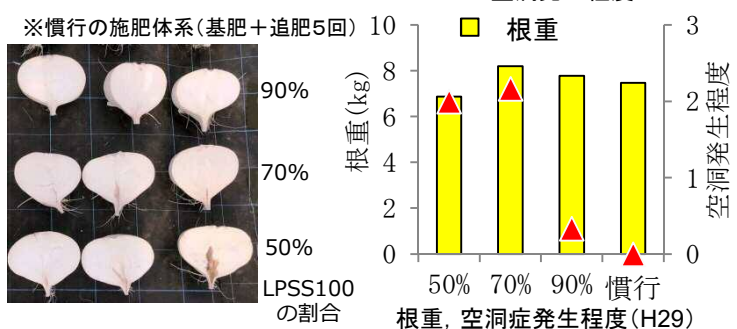
奄美地域

# 桜島大根「桜島おごじょ」の全量基肥による省力施肥技術

園芸作物部

## 技術ポイント

- 施肥する窒素量の90%をLPSS100とした全量基肥栽培により、根重・商品収量を確保しながら、空洞症を大幅に低減できる
- 追肥不要であるため、施肥労働時間は大幅に減少
- 慣行の肥料代と同等



## 適応地域

桜島地域

(公募: 全農肥料試験)

# 1～2月どりレタスの有望品種と地帯別、被覆法別定植適期の推定

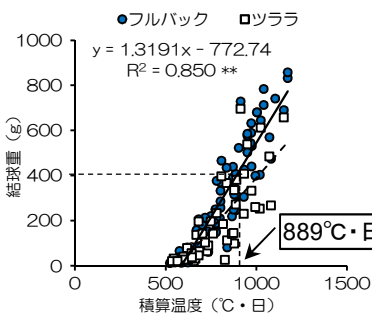
大隅支場・熊本支場

## 特徴

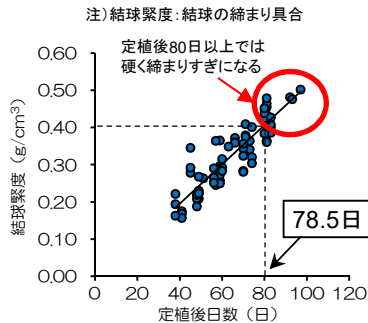
### ① 低温肥大性に優れた品種として「フルバック」が有望

- ・慣行品種「ツララ」に比べて低温肥大性が優れる
- ・結球重400gで良品を収穫するための適地条件を明確化

→ 定植後80日程度で積算温度890°C・日を確保できる地帯



積算温度と結球重の関係



定植後日数と結球緊度(緊度0.4を超えると硬く締まりすぎ)

### ② 適地条件と平均気温の平年値から各地域の定植適期を設定可能

#### ○指宿地域における定植日と収穫日

播種日	定植日	PO被覆	不織布被覆	無被覆
		収穫日	収穫日	収穫日
10月5日	10月30日	12月29日	1月2日	1月8日
10月10日	11月5日	1月9日	1月12日	1月20日
10月20日	11月15日	1月27日	1月30日	
10月30日	11月25日	2月12日		
11月10日	12月5日			

品質不適(硬く締まりすぎる)

#### ○熊毛地域における定植日と収穫日

播種日	定植日	無被覆
		収穫日
10月15日	11月10日	1月8日
10月20日	11月15日	1月17日
10月31日	11月25日	2月5日
11月10日	12月5日	2月20日
11月15日	12月10日	2月26日



硬く締まりすぎ(結球緊度:0.4g/cm<sup>3</sup>以上)

適応地域

県内全域

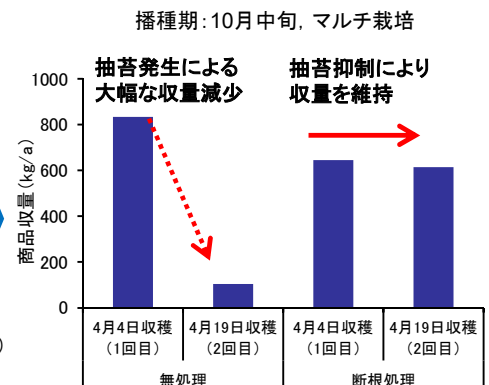
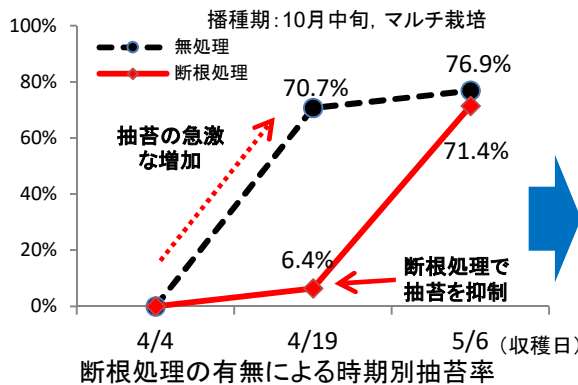
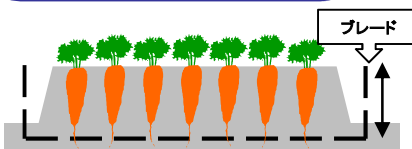
# 4月どりニンジンの断根処理による収穫期延長技術

～ 大規模経営体の収穫期分散に有効 ～

大隅支場

## 特徴

- 4月収穫の作型は抽苔が発生しやすい
- 断根処理を行うことで抽苔発生を遅らせることが可能
- 断根処理方法
  - ・ニンジン掘り取り機を使用
  - ・ブレードは畝面と水平に設定
  - ・処理深さは20cm
  - ・処理時期は3月上旬



断根処理により収穫期間を最大約2週間延長し、収量を確保

適応地域

県内全域

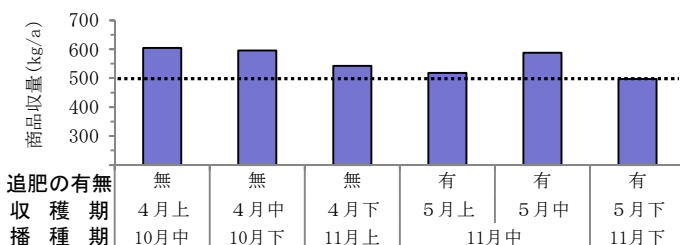
# 熊毛地域におけるニンジンの無被覆・無マルチ栽培による4～5月どり技術

熊毛支場

## 技術ポイント

- 10月中旬～11月上旬播種は、基肥のみで4月どりが可能
- 11月中旬～下旬播種は、基肥と追肥を2回行うことで5月どりが可能
- 5月どりの追肥方法

- ・1回目:本葉4～5枚時, 2回目:本葉7～8枚時(N成分で1回当たり0.2kg/aを条間施用)



適応地域

熊毛地域 (10月～5月までの平均気温が16°Cの地帯)

# 根こぶ病抵抗性を有するナバナ新系統「鹿児島2号」の特性

園芸作物部

## 特性

- 根こぶ病抵抗性を有し、発生ほ場でも栽培可能
- 在来種「開間1号」に比べて、開花始めはやや早い、開花期間は同程度



「鹿児島2号」

「開間1号」

適応地域

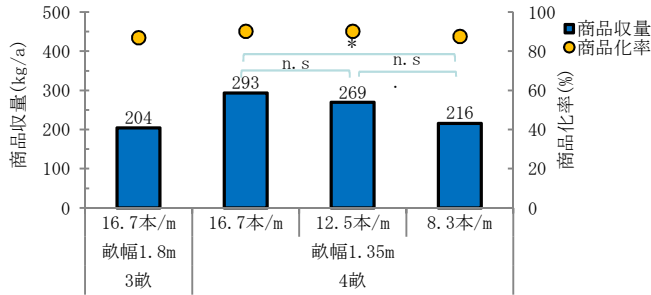
指宿市の菜の花栽培地域

# ハウス長期どりスナップエンドウの作式改善による増収対策技術

熊本支場

## 栽培ポイント

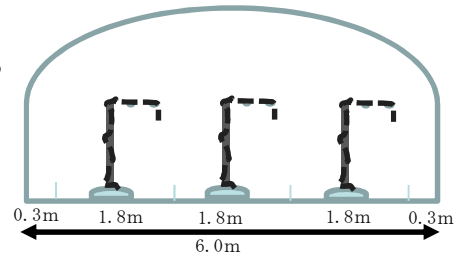
- 3畝配置より4畝配置が多収
- 4畝配置の場合、枝数は16.7本/m  
(播種穴12cm, 1穴2粒播種, 主枝一本仕立て)が最も多収
- 商品収量約300kg/aが可能



## 適応対象

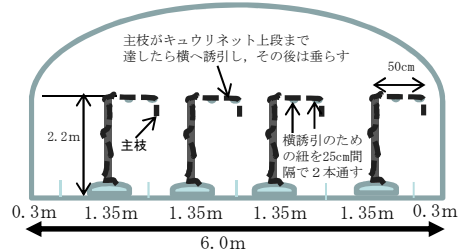
県内全域

★3畝栽培から



★4畝栽培へ

多畝でも作業性は問題なし



スナップエンドウのハウス多畝栽培による高収益化

# 土着天敵の機能を引き出す新たな植生管理技術でスナップエンドウの害虫被害軽減

生産環境部

## 技術ポイント

- スナップエンドウは天敵の定着が困難な作物
- スナップエンドウの周囲に天敵温存植物を植えると、害虫を誘引する「おとり機能」と天敵の捕食効果で難敵アザミウマを抑え、スナップエンドウへの侵入量を抑制し、莢の被害(白ぶくれ症)を軽減
- 障壁植物(ソルゴー)との併用で害虫の侵入をダブルブロック

天敵温存植物上で働く天敵

天敵温存植物	天敵	天敵温存植物	天敵
ソバ	ヒメハナカメムシ	ゴマ	タバコカスミカメ
ホーリーバジル		フウチョウソウ(クレオメ)	

## 通常の栽培



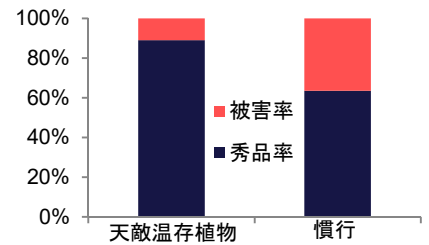
アザミウマは直接エンドウへ

## 新たな植生管理技術



★天敵温存植物の「おとり機能」 + 天敵の捕食  
★ソルゴーの壁でブロック  
エンドウへの侵入量減

新たな植生管理で被害は1/3へ



## 適応地域

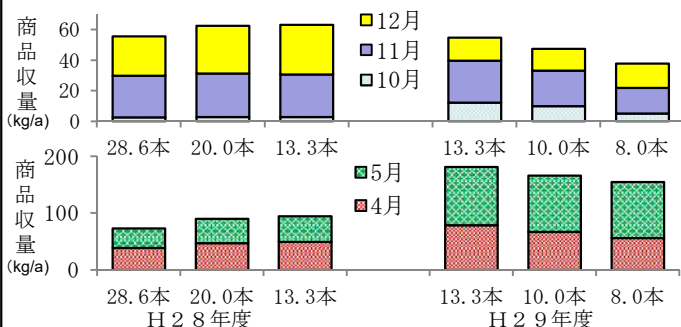
県内全域

# 露地スナップエンドウの年内どり及び4~5月どり作型における最適枝数

園芸作物部

## 技術ポイント

- 播種穴15cm間隔で一穴2粒播種し、m当たり枝数を13.3本/mに調整することで安定した収量を確保
- 主枝は一本仕立てとする
- 株欠損の場合、近隣株の下節位分枝を利用して枝数を確保



## 適応地域

最低気温が-4℃以下にならない年平均気温17~18℃の地域(南さつま市, 日置市および阿久根市, 出水市の沿岸地域等)

# 露地オクラ栽培で土着天敵を有効に活用するためのインセクタリープランツの簡易利用法

生産環境部

## 特徴

- オクラの生産期間を通じて土着天敵を活用するには、天敵温存機能の発現時期が異なる複数植物の利用が効果的
- ソバ(春機能型)とソルゴー(夏機能型)の混植で簡易なIPMが可能

植物	播種時期	機能時期
ソバ	4月上旬	5~6月
ソルゴー		7~8月

ソバで温存される主な天敵→

## 適応地域

県内オクラ生産地域



(公募: 農食事業)